

動く世の中、視点を変えれば見えてくるものがある。ホンネで言いたいことがある。



瓦ばん！

平成21年10月7日発行 季刊

発行責任者：根っから地元派 ばん よしはる

ban-4@ares.eonet.ne.jp

第9号

こんにちは、ばんよしはるです。

最近ニュースで「夏バテ」ではなく「秋バテ」が増加しているという記事を見ました。通常は夏の暑さが原因で体のだるさなどの症状がみられ、秋になって涼しくなるにつれ症状は改善されていくものなのですが・・・昨今は冷房により季節が変わっても、体のだるさ、眠気、食欲のなさなど、夏バテのような症状が続く「秋バテ」にかかってしまうそうです。

朝晩が大分寒く感じるようになってきたので、風邪には十分に気をつけてください。

2000年の地方分権一活法制定以来、ますます加速度的に進んでいくであろう「地方主権社会」を眼の前、地方議会が議会制民主主義をどう実現し、担保していくのか。

そのなかで、斑鳩町の借金ははたしていくらなのかを今回のテーマにします。

我が斑鳩町の平成20年度末起債残高

・一般会計 104億円

その内訳としてJR法隆寺駅関係 17.6億円（駅周辺整備 11億円・橋上駅舎6.6億円）文化財関係5.9億円（史跡用地購入5.6億円・文化財活用センター0.3億円）学校関係0.5億円（耐震補強0.2億円・プール整備0.2億円・体育館増改築0.1億円）生き生きプラザ17.4億円 いきいきの里0.6億円 臨時財政対策債等34.9億円（臨時財政対策債26.3億円・減税補填債、臨時減収補填債8.4億円・減収補填債0.2億円）その他27.1億円（道路関係など）

これらのうち臨時財政対策債等34.9億円は100%交付税算入なので全額国から填補されますので69.1億円になり、約69億円中、俗に言うハコモノ分は主に、橋上駅舎関係と生き生きプラザの24億円になっております。

後は、公共下水道事業特別会計で75億円・上水道事業会計15億円ありますが、下水道の75億円は、元金と利子の返還について約50%の交付税算入があり、約37億円は国から填補してもらえます。

つまり、69.1+37.5+15=120.6億円になり、これから現金基金の約25億円を引くと約95億円の借金が斑鳩町にあるということになります。

これからは、住民の皆さん、そして行政の考えをしっかりと聞かせていただき、少なからず住民の皆さんの「不安」を取り除いていくことができればという気持ちで、引き続いて誠実に行動したいと思っています。



この「瓦ばん！」では町議会議員の毎日の中で感じたこと、活動や思ったことを紹介していきますので、皆様からのご意見・ご感想がありましたら、お知らせ下さい。宜しくお願いいたします。